

「岩塩の教材性(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

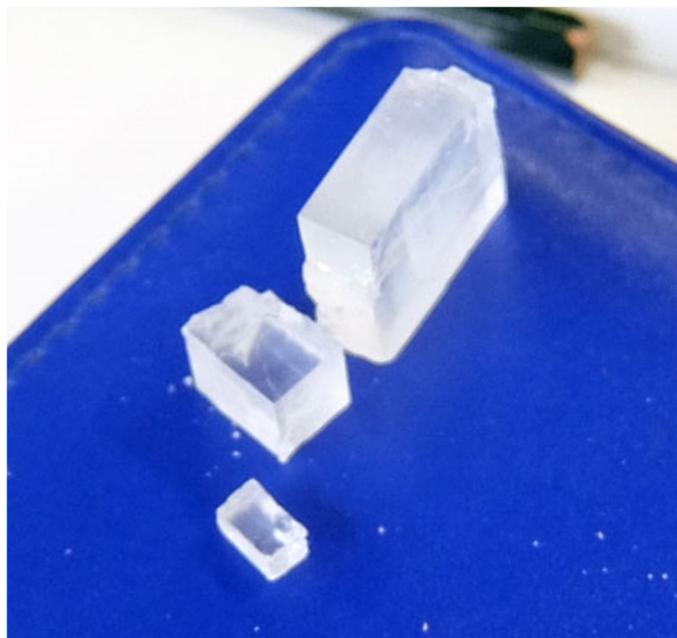
岩塩(鉱物名)は3方向の完全なへき開がある。「割る」というよりは、釘と小さなハンマーを使って「衝撃を与える」と、非常に美しい立方体や直方体になる。



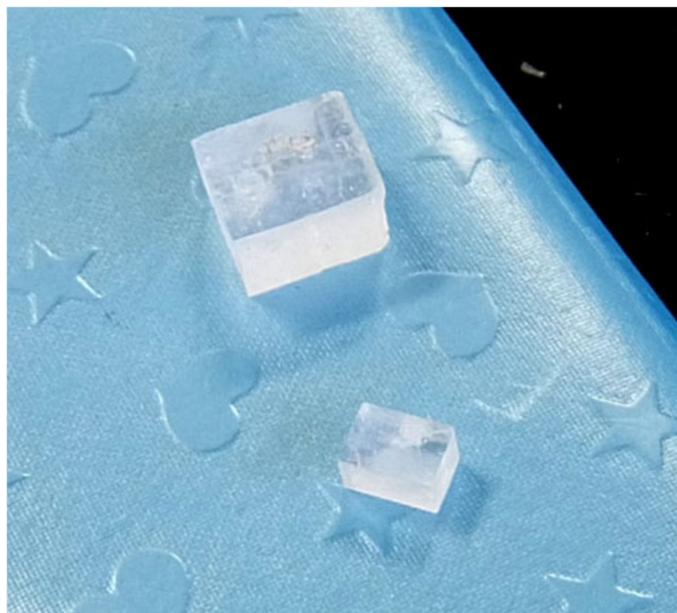
この小さな新聞紙のトレイが、非常に役立つ。小さな破片もすべてへき開標本になっているので、逃さず回収することができるからだ。時々破片が飛ぶので、目に当たらないように注意が必要だ。



これは5年生の帰国児童(女兒)が作った標本。かなり完全な立方体だったが、透明度が今一つで、この子どもはもう一回挑戦するとがんばっていた。



時間経過とともに、子どもたちも慣れてきて、かなり美しい直方体の標本を作ることができるようになってきた。注意すべき点は、これは蒸発や溶解度の差でできた「結晶標本」ではなく、へき開面に平行に衝撃を与えた結果できた「へき開標本」ということである。形状はそっくりだが、形成された過程が微妙に異なる。もしこれが岩塩ではなく水晶だったら、「結晶標本」は相当に美しいものが得られるが、「へき開標本」は、どんなに努力しても絶対に得られない。



実験も終盤にさしかかると、ここまで美しい標本を得ることができるようになる。大きい方で15mm程度の大きさだ。ここまで美しいと、成分が塩化ナトリウムである---つまり塩からいことなど忘れてしまいそうだ。しかし、試しに少し味見をしてみると、紛れもなく塩そのものとわかり、子どもは二度驚く。